

いわて平泉米だより

令和2年6月号



おいしくて最高品質の米作りを



県オリジナル水稲品種「金色の風」の田植え行事を5月15日、JA「金色の風」栽培研究会会員の阿部晋さん（一関）の圃場で行いました。

達増拓也知事は田植機で苗を植えた他、勝部修市長、佐藤鉦一組合長、JA「金色の風」栽培研究会の小野正一会長、金色の風のバケツ稲に取り組む桜町中学校（一関）の生徒3人、合わせて7人で手植えを行いました。

達増知事は「金色の風は栽培条件が厳しく、高い生産技術が求められる。立派に育ち、全国で金色の風の出来を楽しみに待っているファンに届けたい」と話しました。

小野会長は「今年は新型コロナウイルスの感染拡大で、米作りが例年通りできるか不安だった。今日の田植えを契機に、金色の風だけでなく岩手のお米が安全で安心だというアピールにつながる。品質が高くおいしいお米を消費者の皆さまに食べてもらえるよう、研究会メンバーが一丸となり栽培に取り組んでいきたい」と決意を述べ、関係機関へ協力をお願いしました。



達増知事が機械で田植え



中学生らと手植えをする達増知事（左から4人目）

動画は
こちらから

